



医学部だより

第20号

2010.4.1



新入生諸君へ「マニュアルを捨てよう！」

医学部長 玉置俊晃

新入生の皆様、徳島大学医学部入学おめでとうございます。徳島大学医学部に入学した事で、入学した皆さんの今後の人生の方向性がかなり明確になり、希望に燃えていることと思います。是非、この人生の大きな節目に、皆さんのこれまでの生活を少し振り返っていただき、さらに一度は、これからの大学生生活を真摯に考えてみて下さい。新入生の皆様が素晴らしい大学生活のスタートをきって、徳島大学で良く学び良く遊び、楽しい大学生活を送っていただきたい。徳島大学医学部において有意義で充実した楽しい学生生活を送って下さることを、私は切に希望しています。その結果、新入生の皆様が徳島大学卒業の医療人として社会に貢献することにより、社会の人々から尊敬と敬意で受け入れられる素晴らしい人生を送っていただきたいと願っております。

20世紀後半からの急激な生命科学の進歩に伴い医学は加速的に進歩しており、高度先端医療は日ごとに進歩すると共に目まぐるしく変化しています。医師にしろ、栄養士にしろ、看護師にしろ、放射線技師にしろ、臨床検査技師にしろ、多くの新入生諸君は医療人としての人生を送ることになるために、この医学・医療の急激な進歩に対応していく事が求められます。徳島大学医学部医学科の教育理念・目標の(1)には、「科学的根拠に基づいた医療・研究が行えるように自己開発と自己評価の習慣を身につける。」と記載しています。医学・医療の急激な進歩に対応していくためには、学生時代に単に知識や技術を身につけるだけでは不十分です。生涯教育で自己開発と自己評価を行うための自学自習の習慣を身につける必要があります。今、習った知識や技術は5年後や10年後には、役に立たない知識や技術になる可能性は非常に高いのです。医療人として自分に必要な知識や技術を常に吸収していく必要があります。このた

めに、学生時代に自己開発と自己評価の習慣を身につける必要があると、私は考えています。かわいい子供に旅をさせるには、多くのFish/Meatを持たせるよりFishing/Huntingの知識・技術を身につけさせるべきです。

ところが、最近、大学に入学してくる学生さんは、最小限の努力で最大の効果を上げるために受験産業のマニュアルに乗った勉強法で入学試験を突破した方が多いように思います。レベルの低い集団を平均的集団にするためにはマニュアルは非常に有効です。しかし、医療人の教育現場にマニュアルを多く持ち込み過ぎると多くの問題が起きます。解りやすい講義や解りやすいプリントをマニュアル化して学生さんのために用意すると、学生さんは教科書を読まなくなりました。読まなくなっただけでなく、教科書を購しようともしない学生さんが多くなっています。さらに、医師国家試験の合格だけを目的にした参考書や受験産業の模擬テストを学生さんは大切にして、時間を費やしています。医療人の最終目標は国家試験の合格ではないはずですが、医療の現場には、マニュアルで処理できない疑問点や問題点が数多く現れます。マニュアルで対応できない事は仕方がないと諦めては、医学も医療も進歩しません。医学・医療の現場で直面する疑問点や問題点を大切にしてより良い医療を目指すことが大切です。現在の知識や技術で対応できない事に、チャレンジしていく精神がなければ、生涯を通じて良い医療人であることは叶いません。医学部教育で、研究マインドがある問題解決能力を持つ医療人の育成を欠いては、日本の医療や医学の進歩はあり得ないと私は考えています。

「マニュアルを捨てよう!」、そして、生涯にわたり素晴らしい医療人として活躍するために、徳島大学で自己開発と自己評価の習慣を身につけましょう。



新入生諸君へ

医学科長 永 廣 信 治

医学科新入生の皆さん、入学おめでと
うございます。

医学を学び、良き医師や医学研究者に
なる夢と志を実現する道のスタートラインに立ち、大いに心を
奮わせ、やる気に燃えていることと思います。巷で医療崩壊が
叫ばれる中、社会の君たちへの期待も大きいと思います。しか
し、医師としての道はたった6年の学生生活で身につくもの
ではありません。膨大な知識と洗練された技術、日進月歩の医療
をマスターするには、医師は一生涯学び続ける覚悟と姿勢を持
たねばなりません。医学部の6年間は、その最も基礎となる部

分を築くところです。単に医学の知識だけを身につけるのでは
なく、人間性を磨き体力を作るところです。これまでの勉強の
ように試験をパスするだけの勉強では長続きしません。自ら積
極的に学問に取り組み、哲学・文学・歴史など様々な分野の本
を読んで教養と社会人としての思想を養い、運動・文化部など
のクラブ活動を通じて体力だけでなく気力・チームワーク力・
人間性を磨くことが大事です。それによって君たちは大き
く育ち、医道を全うできる真の力が身につくのです。

君たちとともに、この徳島大学で学び交流できることが楽し
みです。



栄養学科へようこそ

栄養学科長 武 田 英 二

この度は徳島大学医学部栄養学科への
入学、おめでとうございます。栄養学科
は、1964年の創設以来、2,200人以上の

卒業生を輩出し、80人以上の大学教授、外国研究所で活躍する
若い研究者、病院での管理栄養士、企業での商品開発、行政で
の健康増進活動、日本栄養士会活動をとおりて栄養学分野を
リードしています。大学は学校教育の最終過程であり、専門能
力を身に付け、人格を形成して、優れた人材を育成することを
めざしています。幸いなことに私たちは大学病院を有し、疾患
の予防から治療にいたる最新の栄養学を勉強できる恵まれた環
境にあります。とくに臨床栄養学、分子栄養学、代謝栄養学、
実践栄養学、生体栄養学、食品機能学、予防環境栄養学の教員

は日本のトップリーダーで、興味深い授業、実習および卒業研
究を通してすばらしい指導を受けることが出来ます。大学は真
理を発見し、技術を創出する教育研究機関であることから、受
身の学習ではなく、積極的に能動的な学習が求められます。栄
養学科は教室間の教員、大学院生、学部学生とともに仲が良
く、励ましあいながら夜遅くまで勉強や研究を頑張ったり、社
会で活躍している先輩の話の聞いたり、将来の夢を話し合っ
たり、阿波踊りを楽しむ等の交流の機会があります。これらを通
じて幅広い交友関係を築き自分を磨いてください。新入生の皆
様、恵まれた環境で青春を満喫するとともに大きな将来の夢や
自分の可能性を育んでください。



新入生の皆さんへ

保健学科長 二 宮 恒 夫

ご入学おめでとございます。心より
お祝い申し上げます。今日は、専門家へ
の道のスタートの日です。今日の決意を

一生涯忘れることなく、自分にあったスピードで歩んで下さい。

これからの大学生活は長いようですが、「あっという間に終
わった。もう少し、勉強しておけばよかった」との感想を、卒
業生のほとんどが漏らします。大学生活を楽しみながら、将来
の自分の姿を描き、そのためにしなければならぬことを心の
中に潜め、一日を大切に歩んでほしいと思います。

専門家の資格を得て社会に出れば、そこには自分の専門を生
かす場と対象者の方（患者さん、家族等）がおられます。場は、
自分と同じ専門家と自分とは違った専門家の人たちの集まり、
対象者の方は自分を信頼し頼りにしてくれる人たちです。

ですから、専門家になるということは、専門の知識を身につ
け、国家資格を得る実力を備えるようになるということだけで
はありません。場と対象者の方のことを考え、そのために必要
な素養を培うことが大切です。それは、相手を思いやるマナー
と正しいことを行うという倫理観です。相手が、自分とは専門
を異にする人たちであっても、専門を提供する対象者の方で
あっても、マナーと倫理観を根底において対応しなければ、い
くら専門の知識が豊富であっても信頼されることはありません。

マナーと倫理観は講義や実習の場だけではなく、それらに関
係した書物やニュースに関心をもち、同僚、先輩、教員等との
話し合いの場で自分の意見を主張することからも培われていく
ものです。徳島大学で学んでよかったと誇りに思ってもらえる
よう、私も教員も心がけたいと思います。

新入生の皆さんへ



医学科4年 大西 健

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。寒い時期の受験からやっと開放され、みなさんに暖かな春が訪れたことを心よりお祝いします。大学では、ひとり暮らしの大変さ、一般教養を初めとする色々な

授業、違う学部や留学生の方との幅広い人間関係など、様々なことを学ぶことができると思います。自分たちでしっかり目標を持ち、頑張ってください。もちろん、皆さんに一番頑張ってもらいたいと思うのは、自分たちの学部の専門授業です。医学科なら二年生で、およそ三ヶ月間、解剖実習を行います。この授業では臓器の位置や働きなど、人体の構造を深く知ることが出来ると同時に、普段あまり触れることのない、人間の死について感じることが出来ます。

高校とはまったく違う勉強の量と質のため、時には気の滅入ることもあると思います。そんな時は勉強を離れて、部活動やアルバイト、友達と遊びに行くなどしてみてください。先輩たちに悩みを相談したり、同期の友達と遊んだりすることは、いい息抜きになると思います。

大学生活は、社会に出て行く前の最後の期間です。皆さんが大学生活を十分楽しみ、悔いのないよう送れることを願います。



栄養学科大学院1年 乙 敬宏

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

長い受験生活では、苦しいこと、辛いこともあったかと思います。しかし、今は、これからの大学生活に期待を膨らませている

ことでしょう。

大学では、自由な時間が大幅に増えます。最初のうちは、戸惑うことがあるかもしれません。しかし、4年間という大学生活は、長いようでとても短いです。ボーッと過ごしては、あっという間に卒業を迎えてしまいます。勉強、部活動、アルバイト、ボランティア活動など、大学内に留まらず、自分が少しでもやりたいと思ったことには、どんどんチャレンジしてください。少し話はそれますが、栄養学科は、毎年3年生が中心となって阿波踊りに熱心に取り組んでいます。先輩方とも仲良くなれるチャンスなので是非参加してみてください。

また、徳島大学の栄養学科は、日本で唯一医学部、薬学部、歯学部が同一キャンパスにあり、様々な分野に関する講義が定期的に行われています。他の栄養学科ではなかなか聞くことのできない講義がたくさんあると思います。この講義には、学部生も参加できるので、興味があるものがあれば遠慮せず参加してみてください。

私自身この4年間でやって後悔したことより、やらなくて後悔したことばかりです。皆さんは、私のようにならないために、寸暇を惜しんで様々なことにチャレンジしてください。卒業したとき、自分が過ごした4年間が有意義であったと自信が持てるような大学生活を送ってください。



保健学科看護学専攻4年
中野 友絵

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。長かった受験勉強も終わり、これから始まる大学生活に期待でいっぱいのことと思います。

大学では、これからいろんな人とのたくさんの出会いがあると思います。この大学に入ったからこそ出会えた、友人、先輩、後輩、先生方。そんな出会い1つ1つを大切にしていってください。これから4年間の大学生活が皆さんにとってかけがえないものになるよう願っています。



保健学科放射線技術科学専攻4年
藤田 一雅

新入生のみなさん、入学おめでとうございます。

大学生としての新しい生活に希望を抱いていることと思います。今、始まろうとしているキャンパスライフはそれぞれの専門分野における知識や技術を身につけるだけでなく、これから自立していくにあたっての良き人間形成の場になるとと思います。失敗も成功も全てが自分の力になる貴重な場です。新しいことに前向きに挑戦して、みなさんのキャンパスライフを満喫してください。



保健学科検査技術科学専攻4年
森本 友樹

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。長かった受験勉強を乗り越え、今始まった大学生活に胸を躍らせていると思います。

大学生活とは、高校までとは違って、かなり自由度が増したものであります。その空いた時間を如何に有効活用するのが大学生活の中で一番重要なことだと思っています。勉強だけでなく、部活動やバイト、遊びなどを通じて様々な人達と交流を持ってください。そうすれば、将来的に立派な医療従事者として活躍できるはずですよ。4年間、長そうで短い大学生活を気負わず全力で楽しんでください。



施設紹介

医学科

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。みなさんはこれからのほぼ6年間で蔵本キャンパスの徳島大学医学部医学科施設で過ごします。そこで医師になるために多くのことを修得します。医学科施設は2007年から始まった改修工事により、施設がリニューアルされるとともにコンピューター室の設置や講義室への無線LANの導入など設備もアップデートされました。また、4年生以上のほぼ全員の自習室も確保されました。一方、教育カリキュラムも大きく様変わりしました。特にチュートリアル導入により自学自習を基本とした教育になりました。自学自習は将来医師となった後も常に最新の医学知識、技術を修得するために重要です。このようなハード及びソフトの改変により、当医学科ではこれまで以上に充実した教育と研



基礎第二講義室

生体防御医学分野 准教授 前川 洋一

究が実施出来るようになっていきます。さらに今春から生理学系および生化学系のスチューデント・ラボを立ち上げました。このラボを自由に活用して頂くことで、研究室配属時にみなさんが滞りなく研究を始めることができることを目指しています。医学研究に興味がある人にはどんどんこのラボを利用してもらうとともに、積極的に研究室に行き実際の医学研究に触れてみることをお勧めします。このラボがみなさんの研究マインド育成に役立つことを期待しています。みなさん、この6年間で大いに楽しむとともにしっかりと責任をもって過ごしてください。そしてみなさんがこの施設・資源を大いに活用し、高度な知識と技術さらに研究マインドを備えた医師あるいは医学研究者になることを願っています。



分光高度計



顕微鏡

スチューデントラボ

栄養学科

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。みなさんが2年次より主に使用される栄養学科施設棟の紹介をさせていただきます。



栄養学科玄関にあるプレート

蔵本キャンパスにあります栄養学科玄関には「食は生命」と記されたプレートが掲げられています。これは、栄養学科設立に尽力された児玉桂三学長が記されたもので、食は生命や健康の根幹であることを説いたものです。私自身、折に触れ、このプレートを見て、栄養学研究の重要性を思い返しています。まず施設の1階は、皆さんが実習を行う、実習室があります。基礎栄養学や臨床栄養学、応用栄養学、給食栄養管理等の科目の実習が行われます。また3年生が主体となって実習室を使い、学園祭の時に栄養展を開きます。学祭に訪れた方に、栄養学に触れてもらえるような展示物を紹介したりします。2階は、自習用の部屋やセミナー室、そして栄養学科で共通使用する研究機器室があります。4年になり研究室に配属されると、セミナー室や共通機器室を使うようになります。また自習室ではインターネットが自由に使えるように無線LANが設置されていま

分子栄養学分野 助教 辰 巳 佐和子

す。3～5階は各研究分野の研究室となっており教官や4年生、大学院生がそれぞれの目標に向かって熱心に研究を行っています。各研究分野の研究内容に興味を持たれた方は、研究室をたずねて来てもらえれば、学生やスタッフが熱く語って下さると思います。みなさんが、この栄養学科で同輩、先輩、我々スタッフと過ごし、教育や人生のアドバイス？を受けることで夢の達成に役立てれば幸いです。



集団給食実習室

保健学科

医用検査学講座 病理解析学分野 香川典子

新しくなった保健学科B棟

阪神淡路大震災から15年、そして、この原稿を書いている1月にもハイチで大地震が発生し余震が続いている。地震国日本では、地震の予知が未だ現実化していないので、地震発生時の生命被害をいかに最小限度にとどめるかが課題である。

保健学科B棟は附属学校時代の建築物である。周りの薬学部や医学部（医学科、栄養学科）が改修され、病院は新しい建物が次々と建設されていく中で、保健学科棟はいつだろうと思っていたところ、麻生内閣の景気刺激対策補正予算で、予想以上に早く予算がついた。昨年11月に改修を終え、12月に私たちは新しくなったB棟へ戻った。そんな中でハイチ大地震のニュースを聞くと改めて有り難いと感謝である。

もちろん耐震化と、見た目が新しくなるだけでなく、建築以来30年余りの間に大きく変化した医療人教育に求められる質と量に対応できるように、これまでの部屋の配置を大幅に見直した。各専攻とも実習室を増やし、実習室の設備充実を図る一方、セミナー室やオープンスペースなど学生との面談・打ちあわせの出来る部屋を新設した（写真参照）。また、大学院設置後、入学者が増えている大学院生の研究支援のために大学院生室を設けた。

まさに、タイトルどおり保健学科B棟は新しくなった。しかし、形態学を専門としている私が言うのもおかしいが、「見かけ」だけでいけない。新しくなった建物で、これまでになかった研究やこれまで以上の教育が求められている。関係各位に御礼申し上げますと同時に、各人が防災意識を高めたものである。



ICU病室を模した実習室、重症患者観察ができる（3階）



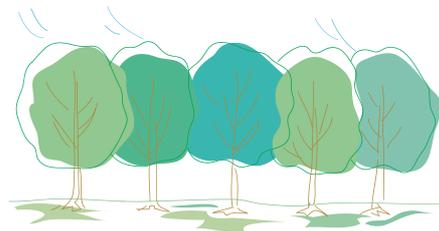
学生との打ちあわせなどに利用できるオープンスペース（5階）

新しくなった 保健学科B棟の外観

南側に新設された自転車置き場



中庭より臨む夕暮れの校舎





先輩からの医学部紹介



新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。

部活動・サークル活動について

大学といえば、まず思い浮かぶのは「部活・サークル」の事だと思います。実際、大学生活において部活やサークルはかなり重要な位置づけにあります。大学には高校までと比べてより多くの部活・サークルが存在します。その中で、4年間、もしくは6年間で共に過ごす事になるわけですから、興味があるところは初めのうちにしっかりと見学して、自分の行きたいところを固めていくことが大事です。



部活動やサークル活動では、自分のやりたい事に没頭できるだけでなく、広い人間関係を築く事ができます。大学内でも、先輩・同輩・後輩・他学部の友人などもたくさん作

れますし、他大学との活動により県外の人とも仲良くなれるのが大きなメリットです。ボクはもう部活を引退した身ですが、最近他大学の人たちで集まって一日中遊んだり、色んな人と仲のいい関係を続けています。

大学生にとって大事なものは、とにかく色んなことを経験し、色んな人と交流する事だと思います。また、授業がない空いた時間を有効に使うためにも、部活動・サークル活動に入る事をオススメします。

栄養学科大学院1年 佐々木 祥平



授業について

1年生は各自で選択することができる一般教養と、各学科ごとに決められている専門科目をそれぞれ受けなければなりません。一般教養は4つの分野に分類されており、それぞれの分野をバランスよく受講することが決まりとなっています。講義の内容や目的といったものはシラバスに記載されているので、シラバスをしっかりと読んで情報を自分自身で集めておきましょう。一般教養の講義内容は非常に多岐に及んでおり、何かしら目を惹かれる講義が見つかると思います。私の場合は、宇宙や、宗教、世界史などについての講義を受講しました。講義は専門的な内容ながらも非常にわかりやすく、あまり詳しいことを知らなくても楽しめる内容でした。大学生では、学習に対して積極的な姿勢が求められます。講義中疑問に思ったことがあった場合には先生のもとへ尋ねて直接質問をし



医学科4年 清木 祐介



たり、図書館で書物や論文などを調べれば多くは解決できると思いますので、これらをどんどん活用していきましょう。一般教養は常三島キャンパスで主に受講しますが、週1～2日は専門科目を蔵本キャンパスで受講します。専門科目では皆さんが学びたいと思っていることについて十分に学ぶことができます。先生方が、その場でできる限りの良質な講義をして下さるので、一生で一度の貴重な機会と思って積極的に学んでください。また、その中でも特に興味を持つような分野が見つかったなら、研究室に顔を出してみるのもよいと思います。以上長い文章となってしまいましたが、先程も述べたように大学生には学習、研究に対して積極的な姿勢が求められます。興味があることに対しては、とどまることなくどんどん踏みこんでほしいと思います。皆さんが充実したキャンパスライフを送れることを心より願っています。

大学生協

保健学科4年 辻本麻愉

大学生協は、私達が大学生活を送るために、様々な面からサポートしてくれるいわば、「学校のお母さん」のような存在であると思います。新入生の皆さんが入学してまずお世話になる場所です。そんな大学生協を少しずつですが紹介したいと思います。今後の生活に役立ててみてはどうでしょうか？

まず、授業を受けるために必要な教科書は、生協でそろえることができます。きちんと学部、学科、学年に応じてセット販売してくれるので安心です。他にも欲しい本があれば取り寄せることもできます。購入の際に生協組合証を提示すれば、10% OFFで購入することができるのでとてもお得です。また、生協では長期休暇には最適である旅行パンフレットもたくさん揃っています。国内、海外と旅行の計画をたてたならば、ぜひ生協で申し込んでみてはいかがでしょうか？学割がきくお得なプランがたくさんあります!!また、帰省時のバスや航空チケットも購入することができます。

他にも、運転免許の申し込みができます。忙しくなる前に取得することをお勧めします。特典がつくので、取得をお考えの方は生協へ足を運んでみてください。食事や休憩の場所としては「KURA-LA」があります。ここでは、飲料、お菓子はもちろん、お弁当もおいてあるので食事もすることができます。昼休み・授業後の休憩にほっと一息…なんてこともできます。気軽に利用できる場所として先輩方からも人気があります。

大学は自分から進んでいろいろなことを見て、聞いて、感じて過ごすところです。待っているよりも積極的に自ら動き、有意義な学生生活を送ってください。



学遊村 学生時代の英語学習

代謝栄養学分野 中屋 豊



私の学生時代を振り返ってみると、大学紛争の最中から、終わりまで経験したことになります。医学部の5年生の時に、浅間山荘事件があり、世論が学生運動から離れていった時代でした。

私は、柔道部で4年生までやっていましたが、大きなケガをして柔道をやめることになりました。そこで始めたのは英語でした。その前に生理学 (Guyton) の本は買っていました、あまり読まずに積んでおいていました。英語の病理の本 (Robins) を買ってきて、読み始めました。最初は多くの単語を引かなければいけないため、読むのに時間がかかりましたが、だんだん速くなり、そのうち辞書もほとんど引かなくても読めるようになりました。5年生になると、内科 (Cecil)、外科 (Christopher) 等の本を購入しました。5年の夏頃に、ECFMG というアメリカの外国人医師のための試験があることを知り、6年の夏に受ける決心をしました。それからは、試験問題集を解きながら、英語の教科書を読みました。英会話の試験もあり、日本人はこちらの方を多くの方が落としていました。そのため、英会話も同時に勉強しました。

ここで、私の経験から、英語の勉強の際に皆さんのお役に立つことをあげてみます。

- 1) 目標があると英語の勉強もはかどる。
- 2) 英語の文章は訳さずに、英語のまま理解する。
- 3) 英語の教科書は物語風に書いてあり、縦読みにしてもおもしろい。
- 4) 何か疑問を持って調べると、そこで調べたことは記憶に残る。

私の場合、目標は ECFMG に合格してアメリカで臨床研修を行うことでした。目標があったため、英語の勉強を続けられたと思います。今は私の時代に比べると格段に勉強しやすくなっています。徳島には外国人がほとんどいない状態でしたし、大学での外国人の講師など年に1回あるかないかでした。その代わり、同級生数人で英語での症例検討会 (New Eng J Med のCPC) を持つようにしました。アメリカのレジデント達も同じような思考過程で診断を下していました。例えば、発熱がある、その鑑別診断を並べ、それを一つ一つ検討していき、これはこういう所見から違うと否定し、残ったものについてさらに検査を進めていくという過程でした。直感で「これだ」と決めつけて診断するのではなく、可能性のある疾患をあげ一つずつ除外していくという診断法は、その後の内科医としての私にとっても役立ちました。最近、徳島大学では、英語の教科書はほとんど売れていないそうです。これからの世界も英語が中心になります。是非学生の皆さん、英語を勉強してください。

徳島大学 創立60周年記念事業

医学部長組織・運営担当補佐 勢井 宏 義

2009年、徳島大学は創立60周年を迎えました。徳島大学は1949年（昭和24年）5月に、学芸、医学、工学の3学部を持つ新制大学として設立されました。現在は、国立大学法人に転換されるとともに、大学院大学へと発展しています。青野敏博学長の下、ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部、ヘルスバイオサイエンス研究部、ソシオテクノサイエンス研究部の3研究部と、総合科学教育部、医科学教育部、口腔科学教育部、薬科学教育部、栄養生命科学教育部、保健科学教育部、先端技術科学教育部の7教育部、総合科学部、医学部、歯学部、薬学部及び工学部の5学部、その他、各種教育・研究施設を抱え、約6千人が在学しており、これまでの卒業生は約4万5千人です。

60周年を迎え、「一輝く未来をつくる徳島大学60」をキャッチフレーズとし、齋藤史郎氏、添田喬氏、武田克之氏の前・元学長を会長・名誉会長とした後援会のサポートとともに、関係者全員参加型の記念事業が実施されました。昨年11月2日には、ホテルクレメント徳島で、創立60周年記念式典および祝賀会が開催されました。飯泉嘉門知事に加え、学術協定を結ぶ韓国・慶北大学校やモンゴル健康科学大学の学長らも祝辞を述べられました。また、様々な方面から徳島大学の教育・研究に貢献された企業・団体に感謝状が贈られました。祝賀会では、徳島の大きな医療的課題である生活習慣病予防のために考案された阿波踊り体操も披露され盛会でした。この記念式典・祝賀



青野学長

会を中心に、数々の記念講演会や記念フォーラムがサテライト的に開催されました。たとえば、昨年12月5日には、あわぎんホールで城戸久枝さんの講演会が多く的一般参加者も迎え開催されました。城戸さんは総合科学部出身で、『あの戦争から遠く離れて 私につながる歴史をたどる旅』を執筆、第39回大宅壮一ノンフィクション賞、第30回講談社ノンフィクション賞などを受賞された新進気鋭の作家です。上記著書は、NHKドラマ「遙かなる絆」として放映されました。また、記念音楽会も開催され、昨年11月29日徳島大学長井記念ホールでクラリネット奏者石川幸司氏らによる木管五重奏が演奏されました。



記念音楽会



城戸久枝さんの特別記念講演会

今回の60周年記念事業には、支援募金として内外から多くの寄附が寄せられました。寄附者の方々については、徳島大学発行の広報誌「とくtalk」および徳島大学ホームページ (<http://www.tokushima-u.ac.jp/>) で掲載されています。この基金の一部は、大学の施設・環境設備の充実に充てられます。医学部のある蔵本地区には、「創立60周年記念研究機器共同利用室(仮称)」の設置が計画されています。旧第3病棟を医学系・歯学系・薬学系分野と附属病院を基盤とした統合医療教育及び生命科学研究拠点となる生命科学総合実験研究棟に改修(平成22年度目標)し、同棟内に研究機器共同利用室を設置します。すでに工事は始まっています。その後、病院外来棟の新設や、県立中央病院と一体となった総合メディカルゾーン構想へと、徳島大学病院は大きく展開されていきます。

少子高齢化時代を迎え、また、グローバル化による国際的競争のなか、徳島大学の未来には様々な課題が待ち受けています。この60周年の節目をあらたな出発点として、これからの徳島大学のあり方や方向性を慎重かつ大胆に見定め、ただ生き残るだけでなく、国際的に「輝く」大学、社会に貢献できる存在感ある大学になれるよう努力しなければいけない、大学の一スタッフとして心あらたにしています。

生命科学総合実験研究棟(現第3病棟)完成予想図



第3病棟①を改修後、生命科学総合実験研究棟に医学系・歯学系・薬学系臨床分野が移転。移転後、医学部臨床研究棟東側②の取り壊し開始。

8F	医学系	薬学系	医学系
7F	臨床分野	臨床分野	臨床分野
6F			
5F			
4F	歯学系	研究共用スペース	歯学系
3F	臨床分野		臨床分野
2F			
1F	設備室	創立60周年記念研究機器共同利用室(仮称)	



<http://www.tokushima-u.ac.jp/article/0011575.html> (徳島大学HP参照) □

医学科では、平成20年度より、クリニカルクラークシップに地域医療学実習が導入されています。地域医療学分野・谷憲治教授が担当していますが、このたび実習を行っている医学科5年生の取り組みが、県立海部病院の広報誌に掲載されました。以下に転載いたします。(医学部だより編集室)



海部病院を拠点とした 徳島大学医学生の地域医療実習

徳島大学大学院地域医療学分野教授 谷 憲治



平成20年度から徳島大学医学科の5年生(一部6年生)全員が県立海部病院を拠点とした地域医療実習を行っています。学生たちは、約10名が一つの班になって、火曜から金曜までの4日間を海部病院医師官舎に宿泊させていただき、郡内の中小病院、診療所、介護施設、訪問診療などで参加型実習に取り組んでいます。

海部郡での地域医療実習

月	火	水	木	金
大学内	海部郡内医療施設			
オピオイド科 救急科	徳島病院 徳島海部病院 徳島病院 徳島地産院 徳島高専病院 徳島診療所 徳島内産科産科 徳島立有馬診療所 介護施設 安藤・行徳 グループホーム ダイヤ・ブイサービス ケアハウス 訪問診療			しづか内科 診療所 研修施設



学生の実習施設マップ



1. 実習風景

① エスコート実習

海部病院の外を登録された患者さんの受付から診察、薬剤の受け取りまでのすべての過程を知ることができます。病気のことだけでなく家族、生活環境など様々なお話を伺いながら、大学病院では学ぶ機会が少ない患者さんを地域全体としてとらえていく医療の考え方を学びます。

② 採血実習

検査室では採血の実習を実施させていただいております。患者さんや検査室スタッフの皆さんには大変お世話になっています。



③ 海部病院名物・売店実習

売店を訪れる患者さんや付き添いの方々、病院内スタッフの皆さんの診療を離れた一瞥を見せていただいたり、裏話などを伺うことができます。良い人情と高いコミュニケーション能力を備えた店員の方がおられる海部病院だからできる実習です。



2. 地域に溶け込んで



▲お昼飯を海部病院へ向かう学生たち

▼平越紅祭りに参加して



3. 実習報告会

最終日の実習報告会には海部病院の医師の他、看護師、検査技師、理学療法士、そして売店のスタッフにも参加していただき、会を盛り上げてくれます。忘れてはいけないのは海部郡の住民の方々や地域医療を守る会の皆さんの温かいご協力です。これからもどうぞよろしくお願い致します。



蔵 本 祭

第25回蔵本祭実行委員長 医学科5年 吉川 雅 登



はじめに、徳島大学創立60周年を迎える今年の蔵本祭を無事に終えることができ、充実感とともに徳島大学の歴史の深さを改めて実感しています。この経験はこれからの私の人生におい

て貴重な財産となると思います。

さて、今年の蔵本祭はテーマ CLIMBERSHIGH～走り出したら止まらない～のもと、大学祭を通じて学生や参加者が皆HIGHになって盛り上がる事ができた、と感じています。天候にこそ恵まれませんでした。医歯薬企画やコンサート、メインステージなど多くの企画で、来ていただいた多くの方々に楽しかった、来年も来たい、と声をかけていただいたことを本当に嬉しく思っています。それと同時に、蔵本地域における蔵本祭の知名度、期待度の高さを改めて実感するとともに、これからも蔵本祭は「魅せる大学祭」でなければならないということ再認識させられました。

最後に、蔵本祭開催にあたり御尽力いただきました学校関係者の皆様、先生方、蔵本地区の皆様、ならびに来場者の方々に心から御礼申し上げます。

蔵本祭を終えて

第25回蔵本祭栄養学展委員長 栄養学科4年 釜谷 達 哉

蔵本祭が終わってさみしいと思ったのは今年が初めてです。私は栄養学展の委員長をさせて頂きました。今年の栄養学展は高血圧予防をテーマに、展示と食事の無料提供をしました。食事(写真がそれです)は1日150食限定としていたのですが2～3時間でなくなり、以降も展示だけでも見に来て下さる方も多数いて、栄養に対する関心の高さを改めて実感しました。

思い返せば蔵本祭が終わるまで、肉体的にも精神的にもしんどいことが多かったです。他の実行委員はほとんどが4年生で学科も違ったので、最初は疎外感といいますか、そんな心境でした。ですが蔵本祭が近づくにつれて少しずつ実行委員の方とも打ち解けることができました。みんな目の下にクマを作って、それでもテキパキと仕事をこなし、実行委員会議をしていた姿

は今でもはつきり思い出せます。お互い協力し合って、全員で蔵本祭を成功させた事実は、これからの生活の中で大きな財産になると思います。



関わった全ての人に感謝を込めて

第25回蔵本祭模擬病院委員長 看護学専攻3年 木村 有 里

今年も基本的な健康チェックや健康に関する展示、AED体験などを行い、414名の方が参加して下さいました。初めは、不



安なことも多く苦労したこともありましたが、熱心に展示物などを見て下さっている参加者の方の姿を目の当たりにして、もっと多くの方に健康に関する事を伝えたいという思いが強くなりました。また、準備や片付けの際に、周りの人が嫌な顔一つせず協力してくれて、本当に多くの人に支えられていることを実感しました。関わった全ての人に感謝したいと思います。さらに今回、この企画に携わることで、参加者の方に関心を持って頂くにはどうすべきなのか、など常に相手のことを考えて行動することの重要性を学ぶことができました。今後、私たちは医療に携わるわけですが、そこには必ず向かい合うべき相手があります。どんな時でも相手の立場に立って物事を考えるようになりたいと思います。そして、今回の企画で学んだ多くのことをこれからの生活に活かしていきたいと思っています。

徳島医学会報告

■ 第240回徳島医学会学術集会（平成21年度 冬期）

法医学分野 教授 西村 明 儒

第240回徳島医学会学術集会が2月14日(日)に長井記念ホールで開催された。今回は、心臓血管外科学分野（北川哲也教授）と法医学分野（西村明儒）が担当した。午前中のシンポジウムのテーマは「災害医療—災害時における産業医の役割—」であり、法医学、工学部、徳島市医師会、精神科、それぞれの立場から過去の地震災害の教訓をふまえて報告があり、今後30年の間にほぼ確実に発生すると言われている南海地震における産業医の役割が検討された。続いて、実践栄養学分野・酒井徹教授の教授就任講演「栄養と免疫機能—大豆イソフラボンや栄養状態はどのように免疫機能を調整するのか?—」があった。昼食をはさんで28題のポスター発表があり、引き続き前回の学術集会で徳島医学会賞を受賞された菊地浩子先生（臨床栄養学分野）「腸管トランスポーターを分子標的とした腎疾患治療法の確立をめざして」と松岡優先生（徳島市民病院）「川崎病は今も増え続けている—徳島県下10年間の集計—」の受賞者記念講演が行われた。午後の公開シンポジウムは「循環器病診療における最新の診かた、

考え方」と題し、内科、小児科、外科の5人の先生による、心筋梗塞の初期治療、不整脈、先天性心疾患根治手術後の成人を取り巻く問題、大動脈瘤治療・オペカステントか、下肢深部静脈血栓と肺塞栓などについての講演と総合討論が行われた。参加された市民の方々から多くの質問が寄せられ、活発な討論が持たれた。最後に2名の徳島医学会賞受賞者が発表され、学術集会は無事に終了した。ご協力をいただいた方々にこの場をお借りして御礼申し上げます。



公開シンポジウム：参加者から多くの質問が寄せられた



第56回徳島大学解剖体慰霊祭

事務部学務課



平成21年10月2日(金)15時から徳島大学大塚講堂において、第56回徳島大学解剖体慰霊祭が開催され、御遺族、白菊会会員、医学部・歯学部・病院教職員、学生等関係者544人が参列いたしました。献体者の霊に黙祷を捧げた後、医学部長、歯学部長をはじめとする関係者が追悼の辞を述べ、その後参列者全員が祭壇に白菊を献花し、系統解剖、病理解剖のために献体して下さった方々の亡き御霊708柱の御冥福をお祈りしました。

有難いことに献体に対する世間の理解が、ますます深まってきており、今後も引き続き献体に対するご理解とご協力が絶えないことを願っています。

学友会活動

●●● 運動部 ●●●

	クラブ名	部長		クラブ名	部長
1	硬式野球部	中西 秀樹	11	硬式庭球部	福井 清
2	ソフトテニス部	武田 英二	12	バドミントン部	土井 俊夫
3	ラグビー部	中西 秀樹	13	サッカー部	荒瀬 誠治
4	卓球部	香美 祥二	14	バレーボール部	
5	柔道部	永廣 信治	15	バスケットボール部	泉 啓介
6	弓道部	石村 和敬	16	空手道部	丹黒 章
7	剣道部	安井 夏生	17	陸上競技部	福井 清
8	準硬式野球部	島田 光生	18	ゴルフ部	曾根 三郎
9	合気道部	上野 淳二	19	フットサル部	阪間 稔
10	水泳部	中屋 豊			

●●● 文化部 ●●●

	クラブ名	部長
1	軽音楽部	中西 秀樹
2	外国語研究会	船木 真理
3	栄養学研究部	宮本 賢一
4	茶道部	羽地 達次
5	室内楽同好会	大下 修造
6	手話サークル	香川 典子
7	地域医療研究会	谷 憲治
8	TIFMSA(徳島国際医学生連盟)	勢井 雅子

※入部等の問い合わせについては、学務課（学生指導担当：☎633-7030）へ連絡してください。

数字で見る医学部

～平成22年3月卒業者の進路状況～

H.22.2 現在

医学科	
進路先	合計
徳島大学病院	27
徳島赤十字病院	6
健康保険 鳴門病院	2
徳島市民病院	2
徳島健生病院	1
阿南共栄病院	1
国立病院機構 善通寺病院	1
神戸市立医療センター中央市民病院	1
中濃厚生病院	1
兵庫県立加古川病院	2
回生病院	1
神鋼病院	1
西淀病院	1
和歌山県立医科大学病院	3
豊見城中央病院	1
メディックメディア	1
東京都立駒込病院	1
神戸赤十字病院	1
神戸大学病院	2
済生会千里病院	1
鳥取県立中央病院	1
市立伊丹病院	1
京都第二赤十字病院	1
高知医療センター	2
済生会中津病院	1
大阪市立大学病院	1
小田原市立大学病院	1
武田総合病院	1
兵庫県立尼崎病院	4
愛媛県立中央病院	2
鈴鹿中央総合病院	1
大阪医療センター	1
香川小児病院	2
沖縄県立北部病院	1
高槻赤十字病院	1
東京大学病院	1
岡山大学病院	1
大阪府立急性期総合医療センター	1
板橋中央総合病院	1
西宮市立中央病院	1

京大大学病院	
進路先	合計
京大大学病院	1
大阪大学病院	1
岡山医療センター	2
亀田総合病院	1
千葉大学病院	1
愛媛大学病院	1
東京女子医科大学東医療センター	1
諏訪中央病院	1
松山赤十字病院	1
神戸百年記念病院	1
吹田市市民病院	2
岡山総合済生会病院	1
聖路加国際病院	1
合計	98

栄養学科	
進路先	合計
株式会社 昌栄	1
老人福祉施設「万田の郷」	1
株式会社 コスモス薬品	1
かがわ総合リハビリテーションセンター	1
高知市病院企業団立高知医療センター	1
医療法人財団百葉の会 湖山病院	1
芳珠記念病院	1
丸大食品株式会社	1
株式会社ジップドラッグ	1
シダックス株式会社	1
森永製菓株式会社	1
岡山県精神科医療センター	1
病院職員	1
東京都職員(栄養士)	1
兵庫県職員	1
久留米市職員	1
小計	16
大学院等進学	
徳島大学栄養生命科学教育部	21
お茶の水大学大学院	1
大阪市立大学生活科学研究科	2
大阪教育大学	1
小計	25
未定	11
合計	52

保健学科：看護学専攻	
進路先	合計
徳島大学病院	17
徳島赤十字病院	3
神戸大学医学部附属病院	2
石川病院	1
大阪大学医学部附属病院	2
大阪市立大学医学部附属病院	1
大阪府立母子保健総合医療センター	1
岡山大学病院	1
岡山赤十字病院	1
香川大学医学部附属病院	3
京都大学医学部附属病院	3
川崎病院	1
倉敷中央病院	1
神戸徳洲会病院	1
国立病院機構大阪医療センター	1
昭和大学病院	1
宿毛市社会福祉協議会	1
手塚病院	1
東京医科歯科大学医学部附属病院	1
東京大学医学部附属病院	1
奈良県立医科大学附属病院	1
西脇市民病院	1
兵庫医科大学病院	1
広島大学病院	1
島根大学医学部附属病院	2
西神戸医療センター	3
徳島県職員	2
大阪市職員	1
丹波市職員	1
小計	57
進学(徳島大学大学院保健科学教育部)	2
進学(徳島大学助産学専攻科)	11
進学(大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻)	1
進学(熊本大学教育学部特別別科)	1
進学(岡山大学教育学部特別別科)	2
県立広島大学助産学専攻科	1
神戸市看護大学助産学専攻	1
島根県立大学短期大学部助産学専攻	1
未定	1
小計	21
合計	78

保健学科：放射線技術科学専攻	
進路先	合計
徳島大学病院	2
大阪厚生年金病院	2
大阪赤十字病院	1
唐津赤十字病院	1

愛媛大学医学部附属病院	
進路先	合計
香川大学医学部附属病院	1
久留米大学病院	1
熊本大学医学部附属病院	1
神戸大学医学部附属病院	1
倉敷中央病院	1
神戸市立医療センター中央市民病院	2
小倉記念病院	1
佐賀県立病院好生館	1
相良病院	1
島根大学医学部附属病院	1
手塚病院	1
麻生飯塚病院	1
JA 山口厚生連	1
大阪回生病院	1
京都医療センター	1
蒲郡市民病院	1
鳥取大学医学部附属病院	2
兵庫県職員	2
香川県職員	1
小計	29
進学(徳島大学大学院保健科学教育部)	3
進学(大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻)	1
進学(奈良先端科学技術大学)	1
未定	5
小計	10
合計	39

保健学科：検査技術科学専攻	
進路先	合計
J A 阿南共栄病院	4
徳島大学病院	1
徳島大学疾患ゲノム研究センター	1
愛媛大学医学部附属病院	1
徳島赤十字病院	1
J A 広島厚生連	1
島岡病院	1
徳島県職員	1
愛媛県職員	2
滋賀医科大学法医学教室	1
医療法人 山崎会 きたじま田岡病院	2
医療法人 白十字会 佐世保中央病院	1
大洋薬品工業㈱	1
大阪府立病院機構	1
小計	19
進学(徳島大学大学院保健科学教育部)	4
進学(徳島大学大学院医学系研究科保健学専攻)	1
小計	5
合計	24

退職者ご挨拶



放射線科学分野 教授 西谷 弘

定年退職にあたり、一言お礼申し上げます。4月に供用を開始したばかりの瀬戸大橋を渡って徳島大学に赴任したのが1988年（昭和63年）の夏でした。徳島に近づく列車の窓には見渡す限り蓮の葉と花という風景が続き大変印象的でした。徳島大学では、皆様のご支援ご協力により、大変充実した20年を楽しく過ごすことができました。心よりお礼申し上げます。

私が医学部を卒業した頃からCTやMRIなどのデジタル医用画像の普及が始まり、急速に発展してきました。それらを用いて徳島大学病院を日本一の放射線部門にすることを目標（夢）として努力しました。紆余曲折はありましたが、皆様のご協力

により2004年4月から徳島大学病院医科部門のすべての検査をデジタル画像で診断に供するフィルムレス病院の運用を開始することができました。一方、放射線科医師の増加も目標としてはがんばったつもりですが、それほど成功はしませんでした。

デジタル画像などの仮想世界ではやり直すことができますが、人生（現実世界）は完全にはやり直すことはできない一筆書きのようなものです。墨をたっぷり含んだ充実した部分もあるかと思えば、かすれた部分もありますが、それはそれなりに意義のあるものと思います。一生をかけて完成させる作品と言えます。学生諸君も自分で大きな目標（大志、夢）を定めて、満足のゆく一筆書き作品を仕上げられるよう祈りながら、お別れの言葉とさせていただきます。



人体病理学分野 教授 佐野 壽 昭

この度、3月末で退職することになりました。ご挨拶申し上げます。

20年余り私は下垂体腺腫の診断、研究を手がけてきました。診断した症例は2000例を越えています。病理所見と臨床データとが揃ったこれだけの症例数は世界的にもトップレベルで、これらを整理、解析し、臨床病理学的知見をまとめ上げることは自分に科せられた責務と考えてきました。ライフワークと信じる課題を達成したいとの思いから、定年まで5年を残す任期のなかばであります。症例の大部分を占める虎の門病院での非常勤勤務を核にした生活を始めることに致しました。

1970年に入学以来40年、教員として33年、教授として15

年、徳島大学にお世話になりました。個々の学生・教職員に関わる委員会を中心に幾つかの委員会委員長を務めさせて頂きましたが、教務関係では学部のチュートリアル教育、60分間授業の導入、大学院の新規カリキュラムの導入、学位審査制度の改定などに携わったことが思い出されます。当時は教育改革への外圧が高かった時代でもありました。学内での教育研究活動あるいは学外での学会活動を通して徳島大学にいくばくかの貢献ができたとするならば、皆様方のご支援の賜であり心から感謝申し上げます。

今後も徳島と東京の往復の中で、徳島大学での教育研究あるいは徳島の医療に微力ながら協力させて頂きたいと思っております。長い間、ありがとうございました。

医学部行事予定 (平成22年4月～平成22年9月)

- 4月6日(火) 徳島大学入学式、医学部共通新入生オリエンテーション (13:30～長井記念ホール)
- 4月7日(水～9日(金)) 医学部新入生学科別オリエンテーション
医学科、栄養学科(4月7日・9日)、保健学科(4月7日・8日)
- 4月8日(木) 学生定期健康診断医学部1年生
- 4月10日(土) 医学部新入生研修 (於：長井記念ホール)
- 4月12日(月) 新入生授業開始
- 4月20、21、22日 学生定期健康診断
医学科・栄養学科2年生以上
- 4月26、27日 学生定期健康診断
保健学科2年生以上

- 8月初旬 西日本医科体育大会
徳島大学オープンキャンパス (学部説明会)
午前：栄養学科、午後：保健学科
医学部保健学科看護学専攻体験入学
徳島大学オープンキャンパス (学部説明会)
午前：医学科
*例年、8月第一週目の木、金に実施しています。



新任教職員あいさつ



保健学科 生殖補助医療学分野 安井 敏之

平成 22 年 3 月 1 日付けで、徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部生殖補助医療学分野に着任いたしました。

昭和 59 年に本学医学科を卒業し、本学大学院へ進み、生殖内分泌学の研究に従事してきました。その内容は、不妊症患者における排卵障害のメカニズムの解明、プロラクチン受容体の意義に関する研究です。これらの研究を基に、前任の山野教授の研究を発展させ、保健学科の一つの柱となる研究分野を確立したいと思います。また、女性ホルモンの減少にともなう様々な代謝や免疫系との関係についても研究しており、この方面にも力を入れたいと思います。私はこれまで共同

研究を通して研究に必要な考え方や技術を学んできましたが、多種職の医療従事者とともに協調しながら研究することが重要であると考えています。現在、群馬大学の保健学科とともに日本の看護師を対象としたナースヘルス研究にも携わっており、世界に向けて日本の結果を発信したいと考えています。教育においては、今日学んだ知識が、臨床現場にどのように活用されているかといったことを重視した教育を行いたいと考えています。知識とともに実習を通じて患者さんやその家族とのコミュニケーションをはかっていくことができるように心がけたいと思います。皆様には今後ともご指導とご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

新任准教授紹介

異動年月日	異動内容	氏名	所属
H 21. 10. 1	昇任	柿内 聡司	腫瘍内科学分野（寄附講座）
H 21. 12. 1	昇任	住谷 さつき	精神医学分野
H 22. 3. 1	昇任	田中 克哉	麻酔・疼痛治療医学分野

◆◆◆ 受賞者紹介 ◆◆◆

13th Award for Pediatric Nutrition

(February 10, 2010)

Van Nhien (National Institute For Food Control, Hanoi, Vietnam・Head of Division of Scientific Research)
(Association of low serum selenium with anemia among adolescent girls living in rural Vietnam.)

このたび米国栄養学会において、本学在学中の学位論文研究が表彰されました。

Van Nhien 先生は、本学大学院栄養生命科学教育部前期課程を修了後、後期課程（代謝栄養学分野）に進み、中屋教授の指導のもと研究を開始されました。その間、ベトナムの小児から成人に至るまでの栄養調査を行い、多くの研究成果を修められました。特にセレン欠乏と貧血の関係について貴重なデータを報告し世界の研究者から注目されています。2008 年 7 月に博士後期課程を早期修了後、現在はベトナム国立栄養研究所・科学研究部門長をされています。



■第 240 回徳島医学会学術集会において、第 24 回徳島医学会賞および第 3 回若手奨励賞の受賞者が選考されました（平成 22 年 2 月 14 日受賞）。

徳島医学会賞

大 学：元木 達夫先生（HBS 研究部心臓血管外科学分野）
＜ピオグリタゾン投与による腹部大動脈瘤における抗動脈硬化作用の検討＞
医師会：上山 裕二先生（田岡病院 救急科）
＜“ER 型救急”を行うことで地域のニーズに応える＞

若手奨励賞

坂東 美佳先生（徳島大学病院卒後臨床研修センター）
＜進行性に増悪をきたし血管内治療を施行した右内頸動脈閉塞の一例＞

■第 8 回徳島新聞医学研究助成金の受賞者が選考されました（平成 21 年 12 月 25 日受賞）。

徳島新聞医学研究助成金

富田 修平先生（HBS 研究部薬理学分野）
＜生体の酸素ホメオスタシス制御破綻に伴う病態の分子機構の解明とその治療法の開発＞
北村 明子先生（HBS 研究部生体防御医学分野）
＜ホモ接合体マッピングを用いた稀少遺伝性免疫難病の原因遺伝子同定＞



◆◆◆ 受賞者紹介 ◆◆◆

中 田 賞

第56回医学科卒業生(平成22年3月卒業)
原 知也



光栄です。万謝いたします。阿波青石の中田篤郎之碑を望む大学図書館で昼夜を過ごした、私史上最も長い6年間でした。まだまだ、藍より出でて藍より淡い小生ですが、少しでも未熟な青さから、師の藍青色へ近づけるよう、精進します。

看護学専攻賞

第5回看護学専攻卒業生(平成22年3月卒業)
郡 奈緒美



この度、看護学専攻賞という名誉ある賞を頂き、大変光栄に存じます。素晴らしい先生方をはじめ、友人・家族の支えにより充実した大学生活を送れたこと、深く感謝しております。今後も患者様の良き看護師となれるよう日々、努力して参りたいと思います。

す だ ち 賞

第5回検査技術科学専攻卒業生(平成22年3月卒業)
藤井美佑紀



この度は名誉あるすだち賞を頂き、心より感謝申し上げます。この場を借りて、共に精進した大切な仲間達、支えてくれた両親、教え導いて下さった先生方にも感謝の気持ちを伝えたいです。春からは愛媛に戻り、臨床検査技師としての道を歩み始めます。みかんの国でも徳島で培ったすだちの心を忘れず、小さくても存在感群で中身のぎっしり詰まった医療人を目指し続けます！

医学部優秀教育賞

医学優秀教育賞：三笠 洋明(医学部教育支援センター 講師)
栄養学優秀教育賞：原田 永勝(代謝栄養学分野 助教)
保健学優秀教育賞：濱野 修一(病理解析学分野 助教)

*医学科、栄養学科、保健学科の教育及び学生指導に貢献した人を表彰する賞です。



医学部優秀教育賞・Best Teacher of the Year 2009 賞 受賞者

前列左から：三笠洋明、玉置医学部長、原田永勝、濱野修一
後列左から：板東紀子、坂東良美、前川洋一、井村裕吉、二宮保健学科長、宮本事務部長(敬称略)

児 玉 賞

第43回栄養学科卒業生(平成22年3月卒業)
原 彩



この度は児玉賞という素晴らしい賞をいただき、大変光栄に思っております。温かくご指導くださった先生方、公私にわたり支えてくれた同級生の皆さん、いつも見守ってくれた家族、そして4年間お世話になった全ての方々から感謝します。これからも初心を忘れず、自身の更なる向上に努めていきたいと思っております。

放射線技術科学専攻賞

第5回放射線技術科学専攻卒業生(平成22年3月卒業)
射場 智美



この度は放射線技術科学専攻賞という名誉ある賞を頂き、大変光栄に感じております。4年間ご指導いただいた先生方をはじめ、支えてくれた家族や友人に深く感謝しております。今後もこの賞に恥じないよう、日々努力していきたく思います。

竹 内 賞

第4回助産学専攻科修了生(平成22年3月卒業)
星野 夏樹



この度、竹内賞を授与できましたこと、大変光栄に存じます。助産学専攻科では、助産に必要な診断能力とケア技術の習得をはじめ、母子とその家族に関わる助産師としての喜びと責務の重さについて学ぶことができました。私たちが助産師になるためにご指導・ご協力下さった全ての方々への感謝を胸に今後も日々精進してまいります。

医学部優秀学生賞

医 学 科 4 年：村田 信也 医学部硬式テニス部：菅生 陵馬
坂本 祐史 横尾 貴史
横山 和樹 弓 道 部：植村 勇太
山下 健 他 5 名
田中 佑佳 蔵本祭実行委員会：吉川 雅登
他 2 名
栄養学科 4 年：菊地 浩子
栄養生命科学教育部・博士前期課程 2 年：菊地 浩子

Best Teacher of the Year 2009 賞

医 学 科：日吉 峰麗(予防医学分野 学術研究員(特任助教))
坂東 良美(病理部 准教授)
前川 洋一(生体防御医学分野 准教授)
栄養学科：板東 紀子(食品機能学分野 教務員)
保健学科：井村 裕吉(医用放射線技術科学分野 講師)

* Best Teacher of the Year 賞は学生の投票で決まる賞です。



徳島大学は、学校教育法第69条の3第2項の規定による「大学機関別認証評価」を受け、「大学評価基準」を満たしていると認定されました。

(平成19年3月28日)

● 認証評価機関

独立行政法人大学評価・学位授与機構

● 認証期間 7年間

(平成19年4月1日～平成26年3月31日)

編集
後記

また、春を迎えました。インフルエンザ対策で、気合いを入れて準備した入試の追試体制も、少し空振りに終わった感もあり、なかなか先を予測するのは難しいものです。大変だった受験勉強から解放された新入生は、自由で開放感あふれるキャンパスライフに胸を膨らませていることでしょう。でも、医学部は、医師や看護師などはっきりとした卒業時の目的を持った学部であり、その目的に合わせたカリキュラムがレールの如く組まれています。その点、予測のしやすいところです。つまり、今、これを勉強して身につけなければ、進級や卒業ができない=職に就けない、という予測です。医学部の新入生には、いつも、しっかりと先を見据えた、予測ある行動を期待しています。(勢井)

発行 徳島大学医学部 編集 医学部広報委員会
広報委員 勢井宏義(委員長)、泉 啓介、曾根三郎、金山博臣、二川 健、田村綾子、森口博基、宮本敏克

本誌へのご意見・ご要望は、(第1総務係:大亀)E-mail:isysoumu1k@jim.tokushima-u.ac.jp まで
お願いします。なお、写真は執筆者各位の提供により掲載しています。

Tel:088-633-9118 Fax:088-633-9028

URL <http://www.hosp.med.tokushima-u.ac.jp/university/servlet/index>